

## 第 2 回基本計画審議会における傍聴者数と意見・感想

## ◇第 2 回審議会傍聴者数

		傍聴者数
会場	一般	5 人
オンライン	一般	2 人
	区職員	33 人
合計		40 人

※動画視聴回数（11 月 16 日 16 時時点）：198 回

## ◇傍聴者意見

## (傍聴者 A)

- 教育に関し、個性尊重、たくましさ、成長に向けての安心感など、将来に向けての安心感など将来に向けての意欲的な取り組みが提案され、楽しみです。
- 福祉についても、世田谷の特性に応じた重要性を感じました。ある意味、「孤独」が根底の課題のような印象ですが、地域力でどう支えるかということに帰着するようです。
- 全体として、地域力がテーマになるように思います。涌井先生御指摘の
  - ・タテ割りからの脱却
  - ・区内でも地域性に応じたクラスター形成
 →これのタテ糸、ヨコ糸で重層的な取り組みと理解しましたが、大いに共感を感じます。
- 若い人の提案
  - ①DX：アプローチとして、DX が目的化しているような印象  
 もちろん「顔の見える行政」的な姿を理想とする考えは、大賛成です。  
 \* DX 以前に、例えば事務フローの見直しなどで、「ムダ」のシステム化にならないようにしていただきたい。
  - ②共感生み出すまちづくり  
 例えば、「自治会」「町会」の役割って何かないでしょうか。

## (傍聴者 B)

- 今回参加して、参考資料によると第 1 回目の傍聴者数が 51 人、とりわけオンラインでの一般傍聴者が 14 人と極めて少ないことは大変残念である。是非オンライン傍聴を増やすように広報の強化をお願いしたい。動画視聴回数 190 回を含めても極めて少ない状況。是非参加ひろげてください。
- 基本計画の取り組み整理について、資料は全分野にわたり多くあり、少し説明時間を増やしてほしいと思った。委員の意見時間も少なく理解するに苦労しました。
- 若手職員の報告は参考になった。区民と行政に距離を縮め、お互い顔の見える行政への工夫が大事でした。この問題では、90 万を超える区民との距離を縮める行政のあり方を考えるに、職員の人数のあり方・量的な必要性も触れてほしかった。

## (傍聴者 C)

- 色々勉強になりました。具体的また細かい点は種々言いたいことがあるのですが、長年世田谷に住んでいて、世田谷がふるさとと考えている人間として以下の点、是非基本計画に組み込んでいただければと考えます。
  - 多様な若者が住みやすい町、住みたい町。そして「住んでみて良かった」と思える町。そんな世田谷になるような計画
  - 全ての若者が「声をあげられる」そして、その声を行政に反映させられる町とするような計画